

平成19年度 第2回豊田市スポーツ振興審議会 会議録

日 時： 平成19年11月26日(月) 午後1時30分～3時15分

場 所： 豊田市役所教育委員会議室

出席者： <委 員> 湯浅 景元 (中京大学体育学部)教授
伊藤 直史 (豊田加茂医師会理事)
小幡 銀伸 (豊田市体育協会会長)
鈴村 幸雄 (豊田市体育指導委員連絡協議会会長)
吉澤 通記 (豊田加茂教育事務所教育主事)
神崎 恭紀 (豊田市小中学校長会代表)
岩月 富士雄 (豊田市身障協会体育部長)
手嶋 道雄 (豊田市スポーツ少年団本部長)
平林 栄子 (スポーツ指導員代表)
北村 幸子 (女性スポーツ団体協議会会長)
大内 光子 (学識経験者)
中野 幸彦 (学識経験者)
中川 淳 (市民公募)
<その他> 新谷 聡美 (中小企業診断士)
<事務局> 笠井 保弘 (豊田市教育委員会)
加藤 満政 (豊田市教育委員会)
梅村 孝志 (豊田市教育委員会)
山崎 隆弘 (豊田市教育委員会)
近藤 保之 (豊田市教育委員会)
加藤 東 (豊田市教育委員会)
柴田 康宏 (豊田市教育委員会)
大嶋 守 (豊田市教育委員会)
坂井 京子 (豊田市教育委員会)

- 次 第 1 新任委員自己紹介
2 教育委員会挨拶
3 会長あいさつ
4 議題
「地区総合型スポーツクラブの活性化について」
(1) スポーツクラブ導入の経緯
(2) スポーツクラブの経過
(3) スポーツクラブの現状
(4) スポーツクラブの経営診断
(5) スポーツクラブ育成支援における課題と対策案
5 報告事項
・平成20年度スポーツ課の主要事業(案)について

議事等の摘要

1. 新任委員自己紹介

2. 教育委員会あいさつ

昨日は、豊田市のスポーツ行政にとってうれしいことが2つあった、ひとつは、参加者、ボランティアを含め、1万人もの人々が参加して第28回豊田マラソンが盛大に行われたこと。もうひとつはトヨタ自動車の野球部が、社会人野球日本選手権で創部以来悲願の全国制覇を成し遂げたことである。

今年4月、スカイホール豊田がオープンした。連日のように大きなイベントが行われており、「みる」スポーツの提供材料が大きく充実した。これも、審議会委員の皆さんのおかげであると感謝している。

今日の議題は、「地区総合型スポーツクラブの活性化」である。6年前に委員の皆さんにご提案いただいたものである。現在11のクラブが発足しているが、一般的にはまだまだ馴染みが薄く、暗中模索の状況である。皆さんのお知恵でぜひ活性化策をご提示いただきたい。

3. 会長あいさつ

話が重複するが、昨日の豊田マラソンは、11月下旬としては最高ともいえる天候で、非常に暖かった。おかげで、参加予定者の96%が参加するという過去最高の参加率となった。招待選手の宮原美佐子さんは、10キロ、4キロコースに参加しながら、遊んでいて走らない子どもたちにきびしく声をかけてくれた。やはり、子どもはきびしく育てないといけないと思う。親の教育も必要であると痛感する。

話は変わるが、来月行われる豊田スタジアムでのクラブワールドカップ。今年は浦和レッズがアジアチャンピオンとして出場するおかげで、切符が売り切れるほどの勢いである。非常にありがたい状況であるが、反面、駐車場不足の課題もある。試合の日は平日で、トヨタ自動車の駐車場が使えないため、市で整備してくれた勘八駐車場に加え、急遽、万博時の藤岡駐車場からシャトルバスを運行する計画とした。中日本高速道路の社長と話をする機会があったが、高速道路だけがいくら充実しても、その受け皿である駐車場がなければ意味がないとのことであった。つまり、物事は点から線へそして面へと有機的につながらなければいけないということである。有能なリーダーとマネジメントもなくてはならない。

4. 議題

「地区総合型スポーツクラブの活性化について」

事務局：本日の議題となる4つの項目を資料に基づき説明(資料1～6ページ)

会長：いま、事務局から説明があったが、今日の議題は、地区総合型スポーツクラブの活性化である。この制度は、我々が答申したものであるが、元々は国の方針、つまり行政主導の形である。豊田市では、6年間で11クラブが発足したが、中学校区ごとという目標を考えるとあと15クラブの発足が必要である。

それでは、先ほどの事務局説明について質問をお願いしたい。

委員：質問なし

会 長：では、質問が無いようなので、意見をお願いしたい。意見については結論でなく、思ったことでもかまわない。

委 員：私はスポーツクラブの運営にたずさわっている。先進地である半田市では、行政のスポーツクラブへのサポート組織がしっかりと機能していると聞く。豊田市でも同様な組織の設立は考えていないか。

事 務 局：スポーツクラブに対して、専門家によるアドバイスを行う組織の検討を行っているが、組織自身の在り方も大切で第二のスポーツクラブになってしまうことは避けたい。行政が陥りがちな縦割りの組織になってしまったり、スポーツクラブがその組織に頼りきってしまったりすることは避けたいといけないと思う。

委 員：スポーツ少年団の会議で、いつもスポーツクラブのことが話題に上がっている。スポーツ少年団は、すでに組織的に完成しているもので、きちんと機能している。そのメンバーが今さらスポーツクラブに入ってどうするのかわからない。スポーツクラブの意義は何なのだろうか。

少年団の指導者はすでに手一杯の状況である。個人的には、少年団に入っている子どもたちは、スポーツクラブに二重で入ることは無いと思う。少年団に入っていない子どもたちがレクリエーションスポーツ等をするということなら、可能性はある。

委 員：質問をひとつ。資料2-2の「クラブが捉える設立の効果と課題」の中で、スポーツクラブの課題として「学校部活動との連携(学校関係者の理解)」が掲載されている。なぜ、課題になってしまっているのだろうか。

事 務 局：アンケートにはクラブが応えているのでその真意はわからないが、スポーツクラブも事務局も学校の理解がないとは決して思っていない。推測ですが、廃部等の関係でスポーツクラブがもっと積極的に部活動にかかわるにはどうしたらいいかという前向きな課題として認識しているという意味と理解している。

委 員：会員の構成年齢がスポーツクラブによってまちまちなのはどうしてか。子ども会とか老人クラブとかの関わりに関係があるのか。

事 務 局：青少年の健全育成を主目的にしているスポーツクラブであれば、子どもが多く、中高年の健康維持を主目的にしているスポーツクラブであれば高齢者が多くなる。それぞれのクラブの運営方針等が年齢構成に現れていると理解している。

委 員：私はスポーツクラブ運営にたずさわったことがないが、スポーツ行事を計画し、その場所を確保することがいかに大変かという経験はある。組織化率は決して高い数字ではないが、それでも大変な努力をしているのだと思う。

ところで、長期に継続しているスポーツクラブの中で、初期に指導を受けた子どもが、成長して指導者になっているケースはあるか。

事 務 局：あるスポーツクラブでは、すこしずつそういうケースが出てきているときいている。

委 員：組織作りに大賛成。スポーツ指導、クラブ経営すべてに関して専門家を育てなければならぬ。スポーツ少年団の指導者のレベルはかなり高い。体育指導委員は、サラリーマンの余暇を活用した活動となっており、専門性という点では、どうしても欠ける部分がある。組織の中で講習会ができるのが良い。スポーツクラブの育成は先の長い話になると思う。

委員：スポーツクラブの会員は、年間どれくらいの活動(参加)をしているのか。スポーツ少年団は、週に数回以上の頻度だと思うが。

事務局：スポーツクラブの会員には、登録だけの人もいる。また、短期の講座にのみ参加する人もいる。会員数と利用者数は異なっている。

委員：資料6ページのマンネリについて詳しく聞きたい。私たちの地区もスポーツクラブ立ち上げを検討している。市の補助金もあるので、立ち上げることは可能と思うが、クラブを継続させることについては自信がない。

事務局：マンネリについては、同種の事業を繰り返しているだけで、次のニーズの開拓や新しい事業展開ができていないということである。

委員：私は2つのスポーツクラブの立ち上げにたずさわったが、はっきり目的がわからずに、とにかく立ち上げなくてはならないという感じであった。スポーツ少年団との係わりもよくわからない。健康増進と競技スポーツの上達は、同じスポーツであっても全く違うものであって一緒にはできないと思う。健康増進についてはだれもが気軽に取り組みるので、もっと地域にアピールする必要がある。

クラブのマネジメントも非常に重要。事業体の運営にはノウハウが不可欠である。

委員：何年前の研修で、群馬県のスポーツクラブの例を聞いた。マンネリ防止のために、年に1回のペースで超有名選手を連れて来るというものであった。どうしてそんなことができるかという、クラブの中心人物の人脈があるからだとのこと。とても真似はできないが、そういった刺激がマンネリの打破に効果があると思う。

各スポーツクラブの方針と目的はそれぞれ違う。私が講師としてお邪魔するときの教え方も異なる。トップがしっかりした考え方で頑張っているスポーツクラブだと、講師としてしっかりやらないといけないという気持ちになる。

地区総合型スポーツクラブではあるが、他地区から参加している会員もいると思う。住んでいる地区はともかく、ぜひあそこのスポーツクラブへ入りたいと言われるクラブづくりができると良い。

委員：スポーツクラブには地域性があり、その目的も様々である。こちらから、これがスタンダードであるという決め付けはできない。資料2-1を見ると、クラブごとに実施種目の数にバラツキがある。しかし、何をしてもマネージャーが少ない点では同じだと思う。マネージャーはスポーツクラブで1人ということではなくもっとたくさん必要だと思う。名称はともかく複数のマネージャーがそれぞれ責任を持って取り組めるのが理想である。指導者の融通などクラブ間の横の連携も必要である。

委員：個人的には組織化率はまあまあの数字ではないかと思う。3%もあればいいのではないか。スポーツクラブは人をどう作るかが課題である。スポーツが好きで、熱意を持っているだけではクラブ運営はできない。スポーツコミュニケーションが大切である。幸い中京大学にはその人材が居る。実際に頼まれたらどうしようか悩むかもしれないが・・・。

スポーツクラブへの加入は強制ではないので何%がベストかはわからない。社会体育の一番の目的は週に何回か運動して、健康を維持することである。残念ながらこの目的を達成するには、スポーツクラブに入らなくても可能である。栄養、怪我防止の

観点から、市内の大学の連携が必要である。

事務局：スポーツクラブの経営診断について途中の経過報告という形で中小企業診断士新谷様より講評いただきます。

診断士：資料3・報告書について説明

- ・組織率の平均は2.5%。最大4.9%から最小0.3%まで大きな開きがある。
- ・経営状況を見ると、赤字である。
- ・年齢別人口グラフが右肩上がりになっているのは、スポーツクラブへ加入することができる人が増えている証拠。会員が増えないのはクラブの工夫不足である。
- ・クラブの中核人材は3人くらいいるものの、すべて熟年のボランティア。この人材がなかなか増えていかない。熱意があるものの息切れ状態で動けない状況になっている。若手の人材を入れるべき。
- ・地域住民の巻き込みができていない。
- ・財務管理ができていない。
- ・3人ほどの中核人物の持つ人脈の中での講師選定しかできていない。
- ・競技スポーツに特化しすぎている傾向がある。
- ・財源確保ができていない。
- ・市には各スポーツクラブ間のネットワーク強化をお願いしたい。
- ・1月26日に11のスポーツクラブを集めて経営診断報告会を開催する。

会長：今までとは違った観点での経営診断はとても良いことである。この件について質問があればお願いしたい。

委員：スポーツクラブの会費はいくらくらいが望ましいのか。8千円が突出して高く、他は1～2千円である。

診断士：いくらが良いのではなく、会費分のメリットがあれば良いと思う。単価が下がっても人数が増えれば良いという考えもある。

会長：市内に大学があることはとても心強い。

委員：学生の力を発揮できる部分もあると思う。スポーツクラブへの参画を単位として認定できるよう考えている。スポーツ指導だけでなく、マネジメント部分の協力も必要である。

診断士：スポーツクラブの運営に対し、女性や若者の意見も必要であるし、そういった人材も中核人材として必要である。

会長：大学にお願いするだけでは申し訳ないので、大学へのメリットも供与できることが望ましいと思う。行政がよく勉強して研究してほしい。まさに点ではなく面の発想である。スポーツクラブについては、みんなが勉強を続けなければならない。今後もよろしくをお願いしたい。

5. 報告事項

- ・平成20年度のスポーツ課主要事業(案)について